

江戸から昭和の化粧文化を一挙に紹介
ミニ電子展示「めーきゃっぷ今昔」公開
お手元のスマートフォン等からどなたでもご覧いただけます

国立国会図書館は5月27日（木）に、ミニ電子展示「本の万華鏡」第29回「めーきゃっぷ今昔 一江戸から昭和の化粧文化一」を公開しました。江戸時代から戦後の昭和までの化粧文化の歴史をウェブ上で楽しみいただけます。

化粧の意味や仕方は、その長い歴史の中で、文化、経済、政治など様々な影響を受けながら変化してきました。そうした変遷を、化粧のマニュアル本や浮世絵・写真などのデジタル資料とともに紹介します。

また、明治から昭和の雑誌に掲載された数々の化粧品広告も公開しています。時代とともに装いを変えてきた化粧文化の移ろいをぜひご覧ください。



<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/29/>

■ ご覧いただける資料の一部

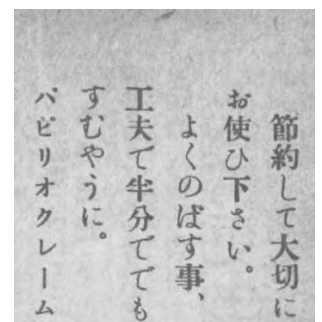
(上記 URL から詳細な画像をご覧いただけます。)



▲江戸時代の美容マニュアル本

1813年、『都風俗化粧傳』が出版されました。大きな目を小さく見せる仕方や背を高く見せる方法などが解説されています。

(出典：佐山半七丸『都風俗化粧傳』下，愛文房福井久兵衛【わ383-5】)



▲戦時中の化粧品広告

日中戦争が長期化すると、化粧品広告は規制されました。当時の広告は、購入を促すどころか節約を呼びかけています。

(出典：『婦人倶楽部』24(10)，講談社，1943.10【Z6-30】)

■ 報道機関の方のお問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 総務課 広報係 03-3506-5103 (直通)